

●意識をすこし変えることで日常空間を多彩に演出しましょう

LIFE STYLE ADVICE

インテリア空間において、色で遊び心を演出する。



レッドを基調とした絵を
アクセントカラーとした
落ち着いた空間

絵画やクッション小物などの 演出により空間イメージが変わります

はじめはインテリアイメージを
決めることから

インテリアを考える時には、まず「意識すること」が大切です。日常生活に慣れ親しんで見えなくなっていることを、時には立ち止まって考え、様々な角度から自分の、家族の生活を眺めてみます。家族構成やそれぞれの趣味、職業、性格、生活習慣などのライフスタイルによって、インテリアスタイルも変わってきます。

意識し、眺め、考えることで、どんなインテリアイメージにしたいのかを決め、住まい全体のイメージをまとめた「ストーリー」に考えることが大切です。インテリアについて、室内を飾ることに思われがちなのですが、たぐと真四角で白く何もないう空間であっても、一筋の光が窓から射すだけで、そこには光と影があり、時間の経過と共に光が動き、夕焼けに部屋全体が赤く染まるという空間のドラマがあります。

そして、インテリアを日本の豊かな四季や時間、天候、さまざまな生活シーン、ライフスタイルといった変化の中でとらえ、豊かな内部空間をつくるためのテーマをもう一度考えてみてはいかがでしょうか。その中で日本の住むための本来の良さを見出し、自分の「インテリアイメージ」を見つけてほしいと思います。



グリーンとイエローを基調とした絵をアクセントカラーとした暖かい空間



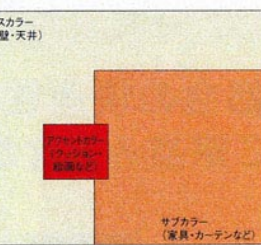
矢代 恵(やししろめぐみ)
一級建築士 インテリアコーディネーター
神戸松蔭女子学院短期大学非常勤講師

もつと日常生活の中で インテリア空間を 意識することが大切

私があるインテリアセミナーに講師として招かれたときのことです。まず最初に会場にいられたたかたかには、「インテリア」我が家の「チェックリスト」と題して、自分の住むインテリアで「工夫している点」「改善したい点」をそれぞれ書いていただきました。「じゃあ、今から10分間でまとめてみて下さい。」

この10分間を私はとても不思議な思いで眺めていました。なぜかというところ、2つのタイプにはっきりと別れたからです。あるタイプは私の言葉と共に、まるで受験の解答用紙を書くように、「コミュニケーションの大きな音を立て、「時間が足りないわ!!」と言わんばかりに必死に鉛筆を走らせる人。もう一つは、「行書いたかと思えば、ピタッと止まりそれからも何も書けない人たちです。

インテリアセミナーに来られる方は、少なくともインテリアに興味がある方々だとおもうのですが、この違いは、いったい何からなのかを改めて考えさせられました。インテリアに興味がある方も、日常生活で意識して自分の住まいを見ることは意外に少ないようです。セミナーで2タイプにはっきりと別れたのは、この普段から「意識して見て考えているか」というかの違いではないでしょうか。



ベースカラー
(床・壁・天井)

アクセントカラー
(家具・カーテンなど)

カラーコーディネート空間面積比

色の個性や配色の法則は インテリア空間づくりの強い味方

インテリアは床材、壁材、家具、照明などの色々々をエレメントと環境の変化によりトータルに五感で感じられるものです。人は五感で様々なことをとらえているのですが、中でも視覚はその87%を占めているといわれています。

ではそのなかで、色はどのような意味を持つのでしょうか?色にはその色特有の個性があり、色の組み合わせで空間全体の雰囲気も随分違うものになります。そして、光のあたりかたや四季によっても色は魔法のように千変万化に表情をかえます。

「色には興味があるけれど、何から手をつけたいか、良しのか解らないわ!」そんな声が多く聞かれています。もつと興味をもつて楽しんで色あそびをしてみたい。そのとき、色の個性や配色の法則を知ると、自分の「インテリアイメージ」にあった空間をつくる時の強い味方になります。

色はいろいろな、明るさ、鮮やかさから構成されています。なかでも明るさと鮮やかさからなる色の調子(トーン)がその個性を

遊び心をアクセントカラーで演出

インテリアの色を決める時、まず部屋全体の基調となるベースカラーを決め、それに添える形でサブカラー、アクセントカラーを決めていきます。その基本的な割合は、70%、25%、5%、5%、5%、5%、5%、5%の面積比率が大きい床・壁・天井といったものがベースカラーになります。家具、照明、カーテン、クッション、絵といったものでサブカラーやアクセントカラーを連結させ、同じベイスカラーの空間でもまた違った表情をつくれることが出来ます。例えば類似した色やトーンは馴染みやすく、静的でもまった雰囲気になり、赤と緑のような反対色ははつきりとした動的でドラマチックな雰囲気になります。

クッションやテーブルクロス、食器、花といった小物に赤や黄色といった個性の強い色をアクセントカラーとして持ってきたり、インテリアグリーンをうまく配して自然な色調の中にも潤いあるアクセントをつけることで、日常の見過ごされた空間がいつもと違った表情をみせます。遊び心でアクセントカラーを季節によって、場面によって変え、リアを未だするのことも楽しくなります。変化の中に個性がある、複雑な中に秩序がある、そんな空間の色あそびは中の秩序のようです。考えぬいて創った空間のつもりでも、自然の変化は予期しきれない裏切りや新しい発見をもたらしつづけています。これが、いへん考えても飽きぬインテリアの空間のおもしろいところではないでしょうか。